

山岳遭難発生状況

(令和7年1月1日～令和7年11月30日)

地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令和7年	353	49	5	170	163	387
令和6年	312	48	3	140	148	339
前年同期比	41	1	2	30	15	48

2 山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北ア	槍穂高	68	19.3%	10	0	34	30	74
	後立山	87	24.6%	8	1	38	56	103
	その他	56	15.9%	1	0	36	25	62
計	211	59.8%	19	1	108	111	239	
中央アルプス	24	6.8%	6	1	10	9	26	
南アルプス	11	3.1%	0	2	8	1	11	
八ヶ岳連峰	38	10.8%	5	0	21	13	39	
その他の山岳	69	19.5%	19	1	23	29	72	
計	353		49	5	170	163	387	

3 態様別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	94	26.6%	28	0	68	0	96
転倒	89	25.2%	1	0	88	0	89
病気	28	7.9%	8	0	0	20	28
道迷い	33	9.3%	0	0	0	50	50
落石	7	2.0%	0	0	7	0	7
雪崩	2	0.6%	1	0	1	1	3
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	57	16.1%	2	0	0	59	61
不明・他	43	12.2%	9	5	6	33	53
計	353		49	5	170	163	387

4 男女別・年齢別比率

区分	男性					比率	女性					比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	7	7		0	0	1	0	1		8	
20代	1	0	4	18	23	46	0	0	1	5	6	18	29	64
30代	4	1	4	7	16	17.2%	0	0	3	8	11	15.1%	27	16.5%
40代	5	1	13	14	33	86	1	0	16	3	20	47	53	133
50代	7	0	22	24	53	32.1%	1	0	20	6	27	39.5%	80	34.4%
60代	10	2	31	26	69	136	0	0	22	8	30	54	99	190
70以上	20	1	18	28	67	50.7%	0	0	15	9	24	45.4%	91	49.1%
計	47	5	92	124	268		2	0	78	39	119		387	
比率	69.3%						30.7%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（11/25～11/30）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
－	飯田市南信濃 八重河内城址	男	63	死亡	不明	10/5に単独で八重河内城址に入山し、行方不明（11/17発見し、行方不明者と確認）

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、山岳遭難の発生はありませんでした。

統計上は、本日から『冬山』となります。

過去10年間の冬山遭難の特徴として、

- ◎ 夏山では5割を占める60歳以上のシニア層の遭難はわずか14%程度
- ◎ 20代から30代が38%、40代から50代が45%と、中年層や若年層にシフト
- ◎ 『遭難＝高齢者』の図式は当てはまらない

など、幅広い年齢層に遭難のリスクが存在しています。

自然環境の厳しい冬山では、小さなミスや判断の誤りが深刻な事態となり、他のシーズンに比べて高い死傷率となっています。

冬山で遭難しないために、**入山前の準備は『生死を分ける』**と言っていいほど、とても重要です。

◎ 登山ルートの確認

机上で模擬登山、登山計画書の作成と仲間や家族・知人等への共有

◎ 登山装備の準備

冬山に対応した装備品の準備、ビバークセットや予備の燃料・食料の準備

◎ 気象情報の確認

入山日前後の天気や積雪状況を確認、ライブカメラ等も活用

は最低限必ず行ってください。無事に下山できる準備は今から始まっています。